

令和 3（2021）年度ヤナギムシガレイ太平洋北部の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 3（2021）年度ヤナギムシガレイ太平洋北部の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 4 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 3（2021）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2021-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

目標および限界水準

- ・ 目標管理基準値は、親魚量（SBmsy）で 529 トン
- ・ 限界管理基準値は、親魚量（SB0.6msy）で 222 トン
- ・ 禁漁水準は、親魚量（SB0.1msy）で 32 トン
- ・ なお、最近年（2020 年）の本系群の親魚量は 822 トンである。

調整係数 β

- ・ 今後の加入が過去に見られた平均的な強度で発生するとした場合には、 β が 0.8 以下の漁獲管理規則を用いれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上回ると推定された。したがって、 β の値は 0.8 以下にすることが望ましい。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用するデータは、令和 3（2021）年度の本系群の資源評価でコホート解析により推定された 1998～2019 年の加入量および親魚量を用いた。
- ・ 本系群の再生産関係としては、自己相関を考慮したホッケー・スティック型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 116 トンである。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 本資源をより効果的に管理するためには、本資源と漁場を共有し、かつては沖合底びき網漁業において本資源の年間漁獲量の 20%以上を占めていたにもかかわらず、現在は評価の対象外となっている千葉県船の漁獲量についても考慮することが重要である。